

第1回湖南省男女共同参画懇話会（会議録要約）

- 日時 令和6年（2024年）2月29日（木） 13時30分～15時30分
- 場所 サンライフ甲西2階 大ホール
- 出席 委員 9名、事務局 3名

1. 開会

- ・あいさつ
- ・配布資料の確認

2. 委員紹介

- ・交代した委員の紹介

3. 報告事項 [発言を一部抜粋・集約]

会長：

湖南省男女共同参画推進状況について、事務局から説明を。

事務局：

《資料① 湖南省の男女共同参画推進状況について報告》

会長：

この報告について、質問・意見があれば。

委員：

女性の悩み相談事業について、今年度何人相談があったか。

1回の相談が継続されるのか、内容によっては相談員が変わるのか。

事務局：

女性の悩み相談は現在5名の相談員が輪番制で対応している。今年度は10回の開催があり、初めての人の場合も、同じ人の場合もある。家族のことや仕事のことを相談される。

委員：

育休取得状況について、従業員50人未満の分類で大幅に増えており、法改正や理解の深まりとの説明をされたが、小さな企業でここまで数字が大きく伸びているのは、他に要因があったのか。企業自身の関心が高まったきっかけがあったのか。

事務局：

この調査は毎年同じ企業から回答いただけたとは限らず、今年度に育児休業を取得した

社員がいる企業から回答がいただけた結果という可能性もある。全体を通して取得率が上がっていることから、社会全体で男性の育児休業の認識が進んでいると考え方もできるが、詳細な分析には至っていない。

委員：

毎年のアンケート結果と併せて、数字が上がった理由を書いてほしい。他市でも、顕著に数字が大きく伸びている。アンケート実施時に、どういうことしたら伸びたのかを聞くと、理由がわかると思う。法律改正で男女の賃金格差が去年から公表されるようになった。男女の賃金格差について、来年のアンケートに項目の追加を検討してほしい。

学校教育でのジェンダーについて、湖南省で力を入れていることを教えてほしい。

委員：

学校でのジェンダーや性教育に関する取組について、これまでも年間計画の学級指導や保健学習で、生理面・心理面について発達段階に応じて学習をしてきた。昨年度から標準制服について、選択制を始めた。また、2色で販売していたピアニカの色をすべて同じ色に変えた。人権週間には「男の子だから」「女の子だから」という意識にとらわれることのないように教育も実施している。

委員：

女性の悩み相談について、相談者にしっかりと寄り添うようにしている。相談員が技術を身につけている。せっかく相談に来てくれたので、解決できるまで寄り添っていきたい。信頼関係のある繋がりができることで、元気になった人もいる。必要に応じて、関係機関に繋いでいる。湖南省の人が気軽に来てもらえるような相談先を目指している。

委員：

男性社員の育児休業について、当社では対象者となる社員はいなかった。女性は育児休業を取得しているので、対象の男性がいれば、取得できるように環境を整えたい。

賃金格差の問題等があり、制度の見直しで見える化をはかりながら、働きやすい工夫と若い子に入ってもらえる環境づくりに取り組んでいる。市役所や自治体であればよく聞けるが、工業会の企業の中でも製造業では男性の育児休業の取得はあまり聞かない。

委員：

当社では、昨年度は3名の女性社員が出産した。男性社員の育児休業の取得も促したが、どちらかが休むなら母親という選択だった。会社としては男性が育児休業を取得して欲しかったが、賃金格差もあり、男性は働いて欲しいという妻の意見だった。

委員：

職場によって、育児休業が取得できる・できないということはまだあると思う。男女で育児をするようになっていけばいい。

委員：

女性が産後休暇の間に男性も給与保障された休みを何日か取るということとはできないのか。2人で休み、生まれた子の将来を語り合うという休暇にしたらいいい。

委員：

できる。夫婦両方の意見を聞いたが、男性の育児休業の取得は難しかった。

委員：

市は意見を参考にして、計画の施策に取り組むように。

4. 意見交換

会長：

この意見交換のテーマについて事務局から説明を。

事務局：

《資料② 地域における方針決定の場での女性の参画促進について報告》

会長：

これについて意見があれば。

委員：

新しい人が入っている中で、考え方を変えなければ湖南省も変わらない。

夫が工業系の会社で人事をしている。60代・70代は育児休業取得に抵抗があり、言い出しにくいのではないかと。そういった世代の人が上司にいと、「何で育児休業を取るのだ」「なんで子どもの学校の行事で休むのだ」「俺らのころは休んでいなかった」と言う言葉も多い。妻として変えていくことも必要であり、夫にも少しでも言えるようになっていくことが一番だと思う。

委員：

湖南省の教職員の管理職で、約半数が女性である。校長と教頭が女性で、保護者からは「女性ばかりの管理職で、不審者対応は大丈夫か」という考え方の人もいる。ジェンダー平等ということをして、子供たちに一番近い大人として、しっかり発信をしていきたい。学校だけでなく、地域で生きる人間として、できることはどんどんしていきたい。後の世代の教職員も同じように、地域にどんどん出ていくことで、変わっていく。こういう話し合いがあることを多くの人が、知ることが大切。

委員：

いきいき通信のように、「男と女」と書いて「ひととひと」という朗読劇をしている。

お母さんの介護の話で、最終的には男性も介護に携わっていかうという話である。敬老会のような場で話すと男性は怒る人がいる。

これから男女差別のないように、発信・周知していく場をたくさん作りたい。男性・女性しかできないことというのは分けて、発信していければ良い。

委員：

私の世代のときは、運動会、卒業式、入学式は、母親だけが来るもので、父親は仕事に行かないといけなかった時代だった。しかし、最近は家族全員が揃うようになった。

区長の話で、区長ではなく、総務部長などの役員に女性が入ってもらえるところからスタートし、順番にしてもらえたらよい。突然、区長は難しい。多くの女性が参加できる形になればいい。

委員：

高齢になってから離婚するなら、スタートからこつこつと家庭の中の男女共同参画を自分たちで作っていくべき。日常生活の中で、我が家から男女共同参画の意識を育てる必要がある。

委員：

主婦をしていたが、したいことが見つかり、仕事を始めた。最初夫には、「家のことをしろ」と言われ、家事をしながらで、とてもつらかった。続けていると、夫もだんだん助けてくれるようになり、今は「頑張ってこいよ」と、助けてくれるようになった。

母からは「女性は女性、男性は男性」と教えられてきた。私は女性だと思って育ち、違和感もなかった。昔からの言い伝えで、男の子だけが参加できる祭りがある。それはそれでいいと思う。5月の祭りは子どもの祭りになっているが、ひな祭りは女の子の祭りであり、おかしい気もする。それぞれの家庭が考えていくことであるが、自身が体験したことを、いろんな人にわかってもらいたい。女性が家庭ではない目標を持つことによって1つ進歩することもある。

委員：

いきいき通信について、年何回発行し、何部ぐらい印刷をして、どういう人の手元に届くのか。それと、子ども版があるといい。幼少期から子どもたちが正しく理解し、自分のことを大事にする。そういう教育は大事だとすごく思っている。ぜひ、子ども向けも考えてほしい。

地域の女性参画だが、地域の根深い意識もあり難しい。地域によっては自治会に入らない人もいる。国の調査結果では、「何をしているかわからない」「お金が不透明」「自治会でやるが、一部の人がやっているイメージがある」ということが大きな要因として挙げられている。自治会は、私たちの日頃の暮らしと関わる大事な組織である。その地域を我が事にして考えてもらうために、自治会活動が情報公開されるといい。会議に参加しやすい時間に開催するということも大事。参加してもらえるところから始めて、次のステップとし

ては役員になってもらうことがいい。

災害時のジェンダーの課題は常にある。地域を我が事にして考えるとき、防災を切り口にして考えていく方法もある。家からどのように避難するか、危険箇所はないか、連れていく人はいないかなど、自分や家族の命を守るためには、意見を言わなければ守ってもらえない。防災は1つの切り口になる。

委員：

まちづくり協議会でもいろいろ取り組んでいるが、なかなか取組が全体に行き渡っていないのは事実。イベントの参加者もほとんど決まっている。

親子が参加できるイベントもしており、子どもも親も会った時に、挨拶してくれる。そういう草の根の活動を1つずつしていくことで、防災などの面に繋がってくると頑張って頑張っている。

委員：

地域に行けば行くほど、難しい問題がたくさんある。学校の先生の話では、これからの子どもたちは大きく感覚的に変化し、私たちが受けた教育と異なり、性差やハンディキャップの有無に関係なく、人として、みんなが助け合い、支え合いながら、本人の持っているいいものを、みんなが認められるように、見つけられるようにということを目指していると改めて感じた。

相談に関わる中で、女だからとか男だからとか、何歳くらいになったら働かなくてはならないとか、一般的な「普通」みたいなにとらわれて、その「普通」に近づけない自分を駄目と思ったり、自分の思っている「普通」を表現したいと思うと駄目と言われたりもする。難しい課題が多いが、自身のことを、出会う1人1人のことから、何が大事なのかを見失わずに、できることからやっていくしかない。

委員：

小学校で「知らない人に声をかけられたら、返事をしてはいけない」という時があった。その後、「誰にでもあいさつしましょう」と変わった。知らない人でも「こんにちは」といったら向こうも会釈してくれるが、湖南省でも、性被害や連れ去りなどがあったから、知らない人に返事しないことも必要なのだろうか。

委員：

立ち当番で旗を持って立っていて、登校する子どもたちに「おはよう」と言っても、みんな黙って行ってしまう。声をかけたこっちが悪いのかなと、思ってしまうこともあるが、最近はみんなも声をかけてくれるようになった。いつも立っている人とわかれば、声をかけてくれる。不審者の情報があるので、どこまでできるかは難しい。

事務局：

いきいき通信の発行に関して、年に1回、3月発行。組回覧と市内施設での設置を予定

している。今後は、レイアウト等も考えながら作成したい。

委員：

子ども向けに、漫画やアニメも入れていただきたい。組回覧ではなかなか中身全てを見てももらえない。字だけではあまり見てももらえないので、留意して発行してほしい。

委員：

組回覧は家族皆で見てももらえず、すぐにまわしてしまうことが多い。SNS や電子データで、多くの人が共有しアクセスできるように考えてほしい。子ども向けにも分かりやすく、見やすいものがよい。

性被害について、知っている人だから大丈夫というわけではない。自分の体を守る、自分のことを大事に思う、そういうことを考え合わせて、なぜ今この状態になっているのかを、みんなが考え、共有し、組み合わせて考えていかないといけない。通信が年1回だが、いろんな機会で皆が考えるきっかけになればいい。

委員：

組回覧は地域も苦労している。戸別配布でも取らない人もいる。組回覧は回覧物が複数に重なっているのでは、中まで見ないことも多い。自分が興味あるものだけを見るという状況である。市の事業は縦割りで、男女共同参画だとその分野だけになる。地域だけでなく、民生委員や、健康推進員と協力ができたりすると、声かけも違ってくる。どこかの事業と一緒にできれば、もう少し見てもらう機会も増えると思う。

事務局：

いきいき通信の紙面の工夫や SNS を活用し広げたい。目につく機会を多くしたい。

会長：

事務局は、意見を参考にし、今後の取組に生かしていただくようお願いしたい。

5. 連絡

事務局：

現在の委員の任期は、本年9月30日まで。4月以降、改めて委員の推薦依頼をさせていただきます。

6. 閉会

- ・あいさつ